

平成 22 年度第 9 回理事会次第

日 時 平成 23 年 2 月 20 日 (日) 10 : 00

会 場 千葉県社会福祉センター2 階会議室

1. 出席者及び資料の確認
2. 開会
3. 会長挨拶
4. 議 題 (1) 各委員会報告事項に対する質疑 (事前送付資料によりご確認ください)
(2) 議事(案) 1. (社)日本社会福祉士会の連合体移行に関する対応
について
2. 平成 22 年度第 2 回総会議案について
(3) その他
5. 閉会

＜三団体研修ワーキングチーム＞

日時：平成 23 年 1 月 24 日（月） 19 時～22 時

参加：6 名 千葉県社会福祉士会 櫻井、高橋

千葉県医療社会事業協会 吉成

千葉県精神保健福祉士協会 安藤、松田、山根

1. 研修会テーマは「在宅死」について

過去に柏警察の方が他の研修会で話をされ好評であったことを受けて、前半の講演に講師としてお願いしたい。また、平成 24 年 7 月の SW ディのテーマ「無縁社会」へとつながりのある研修テーマとなっている。

2. 福祉の仕事フェアへの参画について

参加目的) 福祉の仕事フェアに来場している方へ千葉県 SW3 団体協議会の紹介を行うこと。ソーシャルワーカーという職業の紹介。(昨年 11 月に開催され、ワールドカフェで作成された「ソーシャルワーカーってどんな人？」を参考にして SW の共通基盤等をポスター、チラシによって紹介する。)

対象者) 休職活動をしている学生(高校生、専門学校生、大学生など)
既に資格を有している方
福祉系の大学や専門学校への進学を志望している学生や社会人 など

内 容) ①SW3 団体として紹介ブースを設ける。(現在は CSW と PSW は参加している。)
②SW という仕事を紹介したパンフレットの配布。(ポスター掲示)
③「SW の一週間」という枠組みで現場の職員が発表をする。(会場使用可の場合)

3. 詳細事項 「swの一週間」の発表について(③について)

- ・千葉県社協と協議し、会場(幕張メッセc会場)と時間をもらった場合。
- ・発表者は各団体 2 名。(社会福祉士会は 3 名を検討。)
- ・発表者は現場の人で、業務上多様な業務を行っているような方。他機関との“連携”というポイントも重点とする。例えば、1 週間の紹介をしてその人が業務上で関わりのある他機関の sw が次の発表者となり、バトンを渡していくようなつながりを持つもの。
- ・該当する機関は、病院、地域事業所、行政、中核など。福祉の仕事フェアに参加をしている事業所は高齢者施設が大半を毎年占めているので高齢者施設に勤める sw の方にも発表を依頼する。
- ・発表が終わった後は、ミニシンポジウムのようなことを行い、sw の合いアイデンティティや資格種別の枠を超える瞬間などについてそれぞれについて語っていただく。
- ・時間は従来のセミナー等の空き時間を使わせていただく。(11 時～14 時の間で 1 時間 30 分～2 時間程度の枠組みで)
- ・ポスター、チラシ作製の作業打ち合わせを 2 月 15 日に行う。
- ・ポスター、チラシ作製については、前回の研修会でワーキングチームに加わる希望があった方へ呼びかける。

4. その他 今後の研修ワーキングチームについて(案)

- ・メンバーの扱いについて、各団体からの研修委員とする等、次回 3 団体協議会の際に再び検討をお願い

いする。

- ・現状における今後のメンバーについては、各団体から2～3名は研修委員として派遣をする。各会の予算にも関係することであり、研修委員全員を3団体協議会が募り指名するかたちではない。そして、研修委員以外は、3団体協議会から協力を仰ぐかたち。具体的にはその都度、研修企画、準備、当日手伝いなどは3団体協議会が募集を行い、協議会として選任をする。よってどこの会に所属をしているかということは関係がなくなる。
- ・正式な内容等は規約による。

<企画部会>

日時：平成 23 年 2 月 4 日（金） 19：00～21：00

場所：千葉県社会福祉士会事務局

出席者：岡本（崇）、岡本（武）、桜井、鈴木、高橋、森池

1. 新規事業について

災害福祉、連携システムともにワーキングチームで集まりだし、話し合いを進めている。さらに具体的に詰まってきたら企画部会でも内容を確認していく。

2. 三団体ワーキングチーム報告

- ・1月24日にワーキングチームを開催。
- ・平成23年7月の福祉の仕事フェアへ三団体として参加していく方針となる。
ブースを設けるほか、イベント会場を借りることができたら、「ソーシャルワーカーの1週間（仮）」などを紹介できたらよいと考える。

3. 地域集会・世話人会

- ・3月19日（土）午前中、総会前に世話人会を開催予定。（社会福祉センター2階会議室）
- ・1か月前には世話人へアナウンスする。
- ・1月30日の国家試験当日に「サクラサクのピラ配り」を行い、新会員が入ってくることも期待される。そこで、企画部会からの案として、5月下旬から6月上旬に、“全地区一斉に懇親会”を開こうと提案する予定。不活発な地域もこれに便乗して、開催の足がかりにしてもらいたい。
- ・パッケージ案についても、世話人会の場で簡単に説明できればよい。（内容や講師、資料作成は企画部会で行い、場所やアナウンスを世話人に依頼していく方向など。）

会議・研修会記録票

日時	平成 23 年 1 月 25 日 19 時 30 分～21 時 00 分
場所	千葉県社会福祉士会 4階会議室
出席者(人数)	8名
講師	
スタッフ	高橋・樽林・鯉淵・矢島・山口定・鈴木・松本・森（順不同）
	<p>1. ワーキングチームの目的 「災害時に社会福祉士が（会として）何をすべきか」</p> <p>(1) 視点</p> <p>① 会及び社会福祉士のため</p> <p>② 災害に向けて取り組むあらゆる個人・団体のため</p> <p>(2) 災害時における役割</p> <p>様々な職能団体がそれぞれの専門分野で災害対応する中において、社会福祉士は被災者のニーズ把握と支援（専門分野）をつなげていく重要な役割を持つ（災害ソーシャルワーク）</p> <p>2. 災害ソーシャルワークにおけるブレインストーミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護協会は、災害 3 日後から一ヶ月の間にナース派遣を実施している。 ・ 介護福祉士会は、アセスメントシート等がある。 ・ 柏市では「K-NET」支援者と災害時要援護者のネットワークの総称で、支援者と災害時要援護者の登録制度を中核とする取り組みを行っている。 ・ 「K-NET」では高齢者と障害者の登録が少なく、ネックとして自治会レベルとのマッチングが難しい。また、要援護者の見守りの問題など総論的にはわかっているが、各論的な部分の難しさを感じている。 ・ 新潟県中越沖地震の災害ボラに発生から三週間後に参加。被災地の社協をバックアップし、ボランティアのマッチングを行った。 ・ 浦安では、災害ボラセンの立ち上げを行った。しかし、浦安市単独ではボラをさばき切れなと思う。→他市との横の連携を図っていくべきではないか。 ・ 人を支えるためにはその人の周囲を支えていく視点が重要。しかし、どの分野からフォーカスしていくのか検討が必要。 ・ 佐倉市災害ボラセン立ち上げの際、瞬時にいろんなことを判断しなければならない状況で専門職としてどこまで何を関わるのか？ ・ ボラができることと、専門職ができることの違い。情報の共有化ができたらいいのではないか。 ・ 本部社会福祉士会として阪神大震災の二ヵ月後に災害ボラ参加。仮設住宅に住んでいる被災者から聞き取りを行い、送られてきた物品と結びつけるニーズ調査を実施した。その時はチームで活動（近隣担当者＋応援員）した。 ・ ニーズ調査の中でかかりつけ医が建物倒壊等により機能しておらず、通院で

きない等の健康管理面の対応に困った。

3. ブレインストーミングから見えたキーワード

- ・ どこにフォーカスしていくのか
- ・ ニーズ調査
- ・ 情報のネットワーク化・共有化
- ・ 職責と社会福祉士として関わる部分を分けたほうが良いのではないかと→地域を担当している社会福祉士として何をできるのか、色々な看板を持っていてもやった後に職責を考えても良いのではないかと。
- ・ 社会福祉士の武器→相談支援とネットワーク→繋ぎができること

4. 考えられる取り組み

- ・ 災害の前にガイドラインの作成（会として必要なもの）
- ・ 災害時に必要なものとしてツール開発（会が持つ能力を、社会に活用してもらうための）
- ・ 周知・研修（浸透させ、活用できるようにするためのもの）

5. 取り組みの具体案

(1) ガイドライン作成

- ① 災害時における会としての取り組み方針を決める
- ② 災害時の体制、対応、派遣等

(2) ツール開発

- ③ 広く活用できるニーズ調査と相談支援等のツール開発
- ④ 一定の水準でニーズ把握・支援が可能なチェック方式のシート開発
- ⑤ 平時と災害時にチェックすべき相談支援に必要な資源リスト
- ⑥ 災害時の情報伝達機能の開発（コンビニ等との連携）

(3) 周知・研修

- ⑦ 方針や開発ツールの周知と研修
- ⑧ 災害時における会の取り組み方針を内外に示す
- ⑨ 会員向けの周知と研修
- ⑩ 開発ツールを自治体等で活用してもらうための周知と出前講座

6. 今後の課題

- ・ 優先順位
- ・ いつまでに、どの程度まとめるのか
- ・ 作業分担等

※次回ミーティングの予定

平成23年3月2日（水）

広報部会

今回は、会議の開催はありませんでした。

- ・ 『点と線』第 75 号について編集、校正作業中です。
- ・ 発送予定は3月11日以降を予定。発送作業の対応地区は未定。
- ・ 『ちば社会福祉研究』への論文投稿があったため、第 75 号に掲載予定。内容については、研修啓発部会により確認済み。今後も、研究発表の場として『点と線』の紙面を有効活用していただきたい。

地域包括支援センター部会報告事項

報告事項

高齢者虐待対応専門職チーム派遣実績（前回理事会後）

- 1 月 26 日 山崎 （個別ケース会議参加）
- 1 月 27 日 宮間 （個別ケース会議参加）、須田 （個別ケース会議参加）
- 2 月 3 日 須田 （個別ケース会議参加）
- 2 月 15 日 宮間 （個別ケース会議参加）
- 2 月 19 日 須田 （一般住民向け高齢者虐待防止講演会における講義）

今後の派遣予定

- 2 月 25 日 須田（事例検討会における講評、助言）

3 月 9 日に第 3 回高齢者虐待対応専門職チーム報告会の開催を予定

相談事業部会報告事項

会議・研修会記録票

内容	研修会と今年度の振り返り、来年度の予定など
日時	23 年 1 月 22 日 (土) 17 時 00 分~18 時 00 分
場所	社会福祉センター 4F 会議室
出席者 (人数)	5 人 久保田、辻村、山本、小倉、西沢
記録	<p>1、現場の為のコーチング研修について</p> <p>日時：平成 23 年 1 月 22 日 (土) 13：30~16：30</p> <p>場所：社会福祉センター4F 会議室</p> <p>講師：横浜市総合保健医療センター 片柳 光昭 氏</p> <p>人数：21 人 (会員：13 人・非会員：8 人)</p> <p>スタッフ 5 人 合計 26 人</p> <p>収入：参加費</p> <p>会員 1500 円×13 人=19500 円</p> <p>非会員 2000 円×8 人=16000 円 合計 35500 円</p> <p>支出：講師謝礼金 20000 円</p> <p>講師 旅費 2440 円</p> <p>スタッフ手当 2 人 4000 円 合計 26440 円</p> <p>利益：9060 円</p> <p>その他：</p> <p>アンケートの集計率が非常に高く、ほぼ 100%。</p> <p>アンケート内容は満足度の高い記載が多く、パート 2 を望む声も多かった。</p> <p>熱心な参加者が多かった。</p> <p>1 回限りの研修ではもったいないと感じた。</p> <p>メンタルヘルスの一步手前の内容。予防手段としてこの内容は非常に好感がもてた。</p> <p>また改めて調べると「コーチング」を学ぶ機会があまり県内にないことからこの研修の価値を強く感じた。</p> <p>2、今年度の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料相談事業 <p>今年度並みに行うこととする。</p> <p>淑徳大学フェアについてはしっかりと会の趣旨を先方に伝えた上で参加する。</p> <p>福祉祭りはPR方法について考える。配布用クリアケース作成などなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩サボ事業について <p>未だ実績ゼロ、事業停止も一考では。</p>

基礎研修会などの研修会のお尻に相談会を設け、寄ってもらうようにする。

その際、相談員の分野を明確にすると相談しやすいのでは？

4、来年度について

今年度並みとする。

5、その他

委員会交通費、コーチング研修スタッフ手当支給。

[研修委員会]

研修啓発部会

【報告事項】

- 1、第 4 回研修啓発部会 開催 別紙議事録参照

- 2、ジェイシー教育研究所 第 2 3 回社会福祉士国家試験 解答解説について
→ 3 月 5 日締め切りにて現在作成作業中。
※ジェイシー教育研究所との 2 2 年度契約における最終事業
当該事業終了後、先方に申込み人数を確認の上、請求書を作成。

- 3、実習指導者講習会 2 月 1 4 日、1 5 日 淑徳大学に於いて開催

以上

第4回 研修啓発部会 会議録

日時 平成23年2月6日(日)

千葉県社会福祉センター 4階 事務局

AM10:30~12:00

出席者・・・染野理事、浅見部会長《記録》 君和田氏、池田氏、西沢氏
神田氏

以上6名

1) 実習指導者研修 実際の役員の動きについて

役員の集合時間はAM8:00

当日 淑徳大学のご厚意により会場料、スクールバスは無料となった

司会・・・須田先生、 総合案内・・・神田氏

アシスタント・・・6名 スタッフ・・・10名(淑徳大学生5名含む)

最寄駅の会場案内・・・1日目は西沢氏 2日目は浅見氏が担当

スクールバス大学行き最終便 8時45分

懇親会場所は千葉駅前の甘太郎 3時間予約済み

詳しくは当日 配布される役員スタッフ資料を参照

2) ウェブ模試試験報告及び本試験解答依頼について

JCウェブ試験より本試験・・・問題分析終了、

解答解説・・・担当者へメールで依頼済み←今年度はこれで終了

今回200万円前後の収入になる予定

3) 生涯学習研修(共通基盤研修及び基礎研修)

県から生涯センター内で委託として連絡がある予定

年回の研修を3回もしくは6回とする。1日・・・1、2領域に分ける案

土台作成は神田氏作成・・・今後予算組み替えを行う予定

来年度の基礎研修は平成23年7月に実施予定

4) 東京成徳大学 特別講座について感想・・・

今年度 約11名と人数的には少なかったが、とても熱心な学生が多かった。

5) 研究大会

平成23年 5月予定総務委員会と内容をすり合わせ今後、議題を協議する。

研究誌休刊中・・・代わりに『点と線』に出すことはできないか?

今後 検討する。

6) その他

○部会会議・・・月2回 偶数月の第三日曜日として固定する方向で検討
(場合によって調整はありうる)

会議予定日・・・平成23年4月10日、6月12日、8月14日、
10月9日、12月11日

○今年度はやらなかったが、来年度は受験対策集中講座・・・平成23年11月
頃2日間は実施予定

介護サービス情報公表部会 責任者会議 議事録

日 時：平成23年1月28日（金）19：00～20：00

場 所：千葉県社会福祉士会事務局

参加者：櫻井（東葛責任者）・山口（会計担当）・冨樫（東総責任者）・向縄（千葉責任者）

丸

欠 席：佐々木（南部責任者）・耀（船橋責任者）・川島（副会長）

議 案：1) 各地区状況報告

2) 今後の予定

3) 確認事項

1) 各地区状況報告について

各地区より大きな問題となるような事柄は起こっていないとの報告を受ける（不参加者についても事前に報告を受けている）

各調査員個人レベルの課題として、「スムーズ且つ迅速に連絡の取れない調査員がいる」「マニュアルに則った行動が行えていない調査員がいる」「連絡体制（順序）を把握していない調査員がいる」などが挙げられている。

⇒この件については、マニュアルから逸脱した行動により問題が生じた際には、部会として対応する事が出来ないため、再度マニュアル重視の行動を調査員に促していく。

また、連絡体制については、いきなり事務局に問い合わせるのではなく、①地区責任者、②部会役員の流れで連絡をするように周知する。

2) 今後の予定

次回の会議は3/25（金）19：00～全体会議を開催

それまでの間に（可能であれば、全調査が終了した段階で）地区会議を開催していただく。

2月の責任者会議は実施せず、3月の全体会議に包括する。

各地区より、何事業所か3月に調査実施があるが、会としては3/25にはすべてが終了するように調査を行う。

日程が延びている（未定の）事業所にもそのように連絡し会として3/25以降は調査しないとのことで統一する。

3) 確認事項

3/25全体会議までに次年度（23年度）調査員としての活動意思の有無を行う。

（事前にアンケートを配布）

文責：丸

I ぱあとなあ千葉運営委員会の報告

ぱあとなあ千葉第6回運営委員会

1. 実施日時：平成23年2月14日（月）18：00～20：00
2. 場 所：社会福祉センター4階会議室
3. 出席者：鈴木、吉田、櫻井、篠田、出口、片野、辻村、中山、朽名、田中（10名）
欠席者：石山、福島（2名）
（記録担当：片野）

4. 議題

鈴木委員長より、下記報告および説明があった。

1) 平成22年度第8回理事会（1/16）報告

- ①「負担金」の件：22年度第1回の総会で、23年の収入に応じて24年から「負担金」が徴取されることに決まったが（最高で30,000円）これの配分委員会準備委員会を作ることになり、五十嵐理事が委員長、ぱあとなあ千葉から鈴木委員長が入る（その他メンバーは、浅見、久保田、丸、野田の各位）。
- ② 法人後見への対応：2件目について、法人後見で検討したが、受任できないという結論になった経緯について説明、依頼者を訪問して納得いただいたことの報告。
- ③ 新公益法人への移行について：当会は、いわゆる「非営利型一般社団法人」に移行し、その後、時間をかけて「公益認定を受けた一般社団法人」（いわゆる「公益社団法人」）への移行を目指すことになったことの報告。

2) 平成22年度第2回通常総会議案書確認について

ぱあとなあ関連について確認、予算についてもぱあとなあ原案通り認められたことの報告。

3) 後見制度支援信託について

2月2日にプレス発表があり、別途、最高裁から専門職団体向けに資料の配布（支部ぱあとなあ関係者限定で）があった。

家族後見を想定した信託制度の利用についての構想である。千葉家裁からも当会への説明会の話があったが、都合により中止になった。

4) 第2回支部委託研修連絡調整会議出席報告

中山委員、出口委員が参加。中山委員から報告あり。「人数がどれだけ集まるか」、「会場確保、費用の問題」などの課題があるが、当支部としては、本年度（23年度）も実施する予定。次回会議は5月15日（月）予定。

5) その他

櫻井副委員長より、昨年11月の本部ブロック会議で提起された「受任者面接の実施」および「受任者サポート体制の整備」に関して、当会として検討すべきではないかとの提案があり、具体的な方法を検討することとなった。たとえば、

- ・「面接実施」については、初めて受任した会員に対して、4月以降に実施すること
- ・「受任者サポート」については、「ぱあとなあ千葉サポート」の4月以降のやり方につ

き、研修委員から案を出してもらったこととした。

5. 各担当より報告等

- 1) 研修 : 田中委員より、3月12日に電話相談に関する研修会を実施すること、「いのちの電話」から相談員の方に来ていただいて話をしてもらったこと、および「電話相談に関する様々な課題」について、参加者から意見を出してもらい、課題ごとに当会としての考え方を整理するよう努めたいこと、などの提案があった。
- 2) 法人後見: 片野委員から本部への定期報告書の作成、および施設との契約書締結等に関して現在とり進め中之であることの報告があった。「法人後見業務監査委員会」の組成については、懸案になっているが、これは必置事項であり、理事会において組成していただきたいこと。
- 3) 広報: 特になし。
- 4) 虐待防止: 朽名委員から1月8日に第2回高齢者虐待報告会があったことについての報告。第3回目は3月にある。「高齢者虐待対応」は「ばあとなあ」の所管であるのか(「地域包括」関連の総合相談委員会でも関与しているが)要検討。
- 5) コーディネート: 片野委員よりコーディネート状況について報告。昨年4月以降のコーディネート実績は108件(本日現在)になっており、件数は昨年度と比較して約50%増になっている。
- 6) 会計: 辻村委員より報告。期末にまとめて清算することになった。毎月の実績をまとめて、メーリングリストにより各委員に報告する。12月末までの分については報告済み。
- 7) 電話相談: 上記1)の通り
- 8) 渉外: 櫻井副委員長より渉外活動の必要性について提起あり。「ばあとなあ千葉」の紹介パンフレットのようなものを作成できないか、要検討。

6. その他

メーリングリスト管理者の件: 現在ばあとなあ千葉のメーリングリスト管理者がいないので、鈴木委員長が管理者になることについて、全員異議なく了承。

7. 次回運営委員会開催予定日: 4月4日(月) 18:00~20:00

次回運営委員会では、「ばあとなあニュース4月号」の内容、および本日の運営委員会で提起された上記複数の課題について、各関係者が案を作成し、委員会にて検討することとなった。

II 22年12月に受任した法人後見の事案につき、1件目の法人後見で使用した千葉県福祉士会の印鑑を使用することの承認を求めます。

以上

【事務局報告】

○ 後援

- ・ 千葉県社協 県民福祉セミナー 3月3日
- ・ 大成会 第12回自閉症基礎研修 3月5日
- ・ 成年後見センターしぐなるあいず 成年後見人制度講演会 6月11日

○ 委員推薦

- ・ 野田市介護認定審査会委員 伊藤栄子
- ・ 船橋市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員 目黒副会長
- ・ 船橋市高齢者虐待防止ネットワーク担当者会議の構成員 薄井哲子
- ・ 浦安市介護給付費の支給に関する審査会委員 出羽文明 宮崎淳子 白川洋子

○ 講師派遣

- ・ 千葉県東葛飾障害者相談センター 成年後見制度研修会 2月25日 石山明子

○ その他

- ・ 千葉県社協 第5回理事会 2月19日 神山会長
- ・ 千葉県健康福祉部 第3回千葉県認知症対策推進協議会 3月15日 北昌司

**** 会員情報 ****

2月16日現在 正会員:1,191名 (新入会:0名、転入:0名、転出:0名、退会:0名、)

➤ 1月本部会員情報より

平成 22 年度第 9 回理事会

議案 2 平成 22 年度第 2 回総会議案について

平成 22 年度第 2 回総会において、次の議案を追加提案することについて、理事会の承認を求めます。

<提案の理由>

・理事改選時に千葉県社会福祉士養成校協会(設立準備中)に会員外理事の推薦を依頼していたところ、日本社会福祉士養成校協会から推薦回答が平成 22 年 2 月にあったもの。

なお、推薦された理事候補者は聖徳大学人文学部社会福祉学科准教授です。

・平成22年第2回通常総会資料 追加

第 6 号議案 理事の選任について

以下の方を本会、会員外理事として選任の承認を求めます。

1	川口 一美	会員外理事 (日本社会福祉士養成校協会 推薦)
---	-------	----------------------------